

少子化に伴う労働力人口の減少は国際競争力という観点から深刻な問題だ。対策の一つとして、女性の労働力を増やすため育児支援、働き方の多様化などを早急に進めなければならぬとの議論が行われている。もちろん環境整備を進めなければならぬことは言うまでもないが、教育の現場を見ると、それだけで解決するとは思えない。職業の選択は個人の意思によるところが大きく、教育に携わるわれわれや親も含め、社会の意識を変えなければ本質的な解決にはならない。

例えば、かわいそうだからと、子供が自力で乗り越えるべき壁を先回りして取り除いてしまふ親が増えている。そこには子供の将来の自立に対する意識が存在しない。また、少しでも世間の評価の高い学校へと教員や親が進路を

解答乱麻

品川女子学院副校長 漆紫穂子

教育

偏らぬ人生設計教育を



誘導し、子供が自らの責任で選択するチャンスを取り上げてしまふ。そこには、未来が現在の延長線にあることを

うるし・しほこ 東京都内の私立中教諭を経て、父が理事長を務める品川女子学院中高に移り、平成12年から副校長。大胆な改革で偏差値を20上昇させ入学希望者を6倍にした。意識を持たなければならぬ。

子供たちが社会とのかかわりを考えるのに有効な手段として「ライフデザイン教育」がある。将来をキャリア

前提とした、過去の成功モデルの押しつけがある。未来の社会変化は誰も予測できない。子供たちにとって本当に必要なものは、どんな未来の中にあっても果敢に、柔軟に、自らの意志で人生を切り開いていく力だ。子供たちの現在のみを見る視点を将来へと移動し、そこから逆算

だけでなく、結婚などプライベートの側面からもとらえて設計するというものだ。女子の場合は、出産をチャンスとしてとらえることで両者のバランス意識が高まり、それが将来につながっていく。しかし先日、私が勤める学校で、仕事で活躍している女性性の講演会を行った際、「す

「才能より、何日でも気持ち悪くなるくらい考え続けられること」という話や、編集者の「きのうは校了で徹夜、だけど楽しい」という話を聞き、「できることより好きなことを仕事にする」という生徒。このとき初めて自分の母親が仕事の話をするの聞き、涙する生徒もいた。

私の学校ではこの教育の環境で、さまざまな職種の人を招き、生徒に話してもらっている。反応はさまざまだが、アナウンサーの話には、「かっこいい」と思ってたけど、三時起きなんていや」「原稿読みだけじゃなくて企画もできるな」と面白そう」と正反対の感想が。デザイナーは将来を見据えた彼女たちの輝いた姿を見ると、教育には日本を変える可能性がある」と実感している。

毎週月曜日掲載